

福岡

地域福祉活動職員の

まなこ

地域福祉活動推進のため

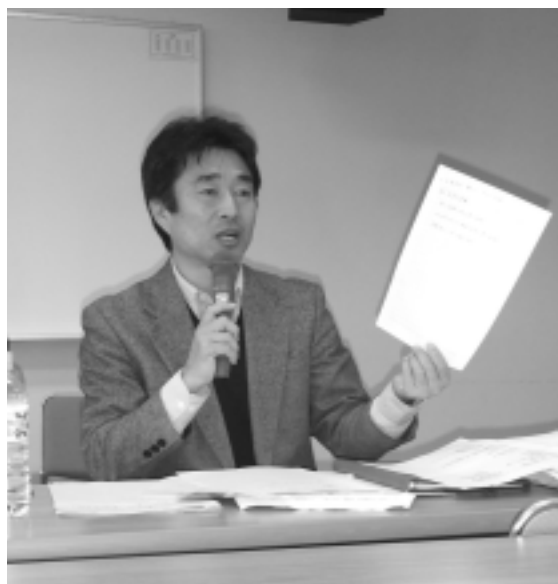
No. 65

2010年1月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

★報告

《地域福祉の考え方を再構築する研修会》

地域を見られるワーカーへ



▲1月に予定している、うきは市での調査に向けて、調査票の作成や質問項目の検討など、グループワークを中心に研修が進められました。

あなたの地域の社会の質は？
うきは市での調査に向けて
いよいよ最終段階！
地域を重層的に見られる
コミュニティワーカーへ

本年度の地職連研修事業は、生活世界からの地域福祉論を切り口に、私たちが関わる『地域福祉』をシリーズで考え、再構築する研修として、8月にスタートしています。全7回で、講師に小野達也先生(大阪府立大学准教授)を迎え学習しています。第6回目が12月22日(火)、福岡市市民福祉プラザにおいて開催されました。

(報告/香春町社会福祉協議会 建部正雄)

今回の研修は、うきは市での調査実践に向けた具体的質問事項、方法を決めることが主な内容でした。グループワークを通じ、ソーシャルクオリティ(以下、SQ)の4領域に基づき調査項目、方法を検討し、調査票を作成しました。

調査実践に向けて

ヒアリングの対象は：

はじめに、調査実施地である、うきは市社協職員から、あらかじめ選定したヒアリング対象についての報告がありました。

【ヒアリングの対象】

- ① 不登校児とその親
- ② 交通弱者
- ③ 子育て(未就学児)中の保護者
- ④ 自治会未加入者

②④については対象を特定しづらいので、実際の調査では、うきは市でどんな問題が発生しているのかを調べ、それを掘り下げることになりました。

4つのヒアリング対象から、報告者が属したグループでは「③子育て(未就学児)中の保護者」について調

査することになりました。

グループワーク

質問事項の検討

報告者は「子育て（未就学児）中の保護者」を調査するグループでワークを行いました。

まず、第4回目の研修時（※まなこ63号参照）に出された意見を集約した資料から、子育て（未就学児）中の保護者に係るSQの4領域について、該当するものを抽出した項目を基に、次の具体的な質問を考えていきました。

《質問事項》 あなたの地域（地区）の社会の質は？

【基本的事項】

□性別（男性 女性）

□年齢層

20歳未満 20歳代 30歳代
40歳代 50歳代 60歳以上

□居住歴

1. ずっとここに住んでいる
2. 他から引っ越してきた

（ ）年前

□家族構成

□職業

【社会 経済的保障】

- ①乳幼児の医療が受けやすいか
- ②親子で公共施設（公園、図書館、体育館）を利用しやすいか
- ③育児・子育てに関する相談をしやすいか
- ④子育てに関する情報を得やすいか
- ⑤育児に関わる買物物がしやすいか

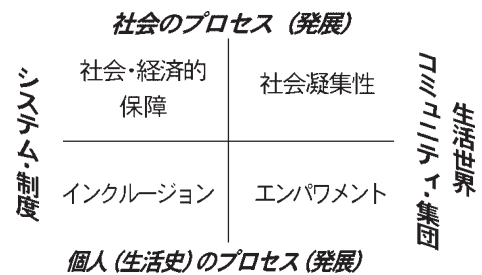
【インクルージョン】

- ①子育てに悩んでいる人がいるか
- ②行政の子育てに関する制度やサービスが使えない人がいるか
- ③子連れのとき、嫌な思いをしたことがあるか
- ④子連れ（育児）中でも仕事をしやすいか
- ⑤「子連れではちょっとね…」と戸惑うことがあるか

【社会凝集性】

- ①子育てに対する理解があるか
- ②子育てサークルや育児サロンなどが行われているか
- ③民生委員が関わっているか
- ④地域の行事の中に、小さな子どもを対象にした取り組みがあるか
- ⑤自分に用事があるとき、誰かに預けられる関係が築けているか

ソーシャルクオリティの枠組み



出展 Walker, Alan et al. eds. Social Quality2001:352
一部修正

【エンパワメント】

- ①子育てに関して意見を言う場があるか
- ②子育てに関しての悩みを気軽に相談できる相手がいるか
- ③転居（新しく仲間に入る）者を受け入れる雰囲気があるか
- ④困ったとき、手を差し伸べられたことがあるか
- ⑤子育てに対して、周囲の協力を得ることができるか

※実際に調査を行う際は、質問の文頭に「あなたがお住まいの地域では」という言葉を付けます。

《対象・方法》

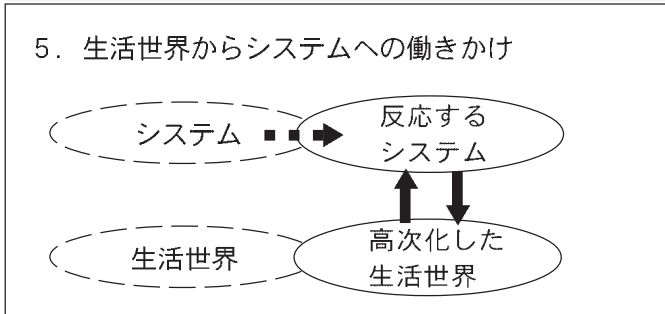
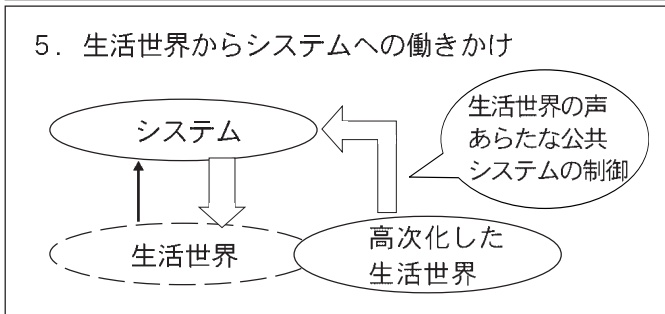
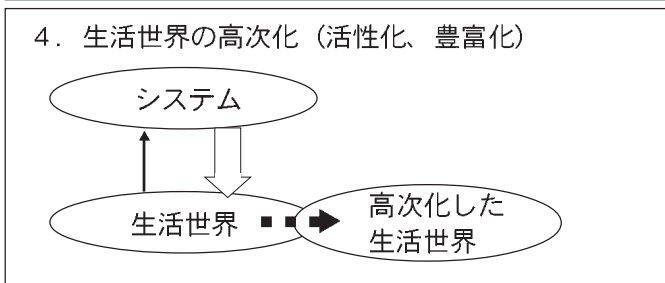
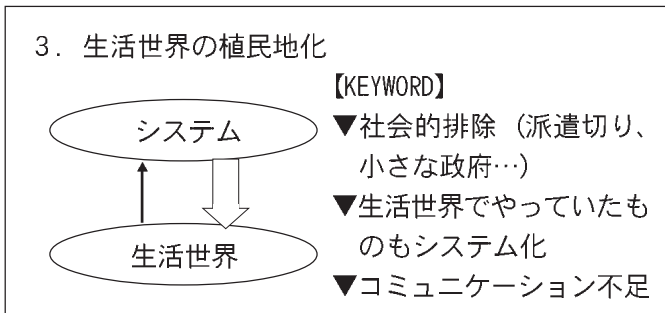
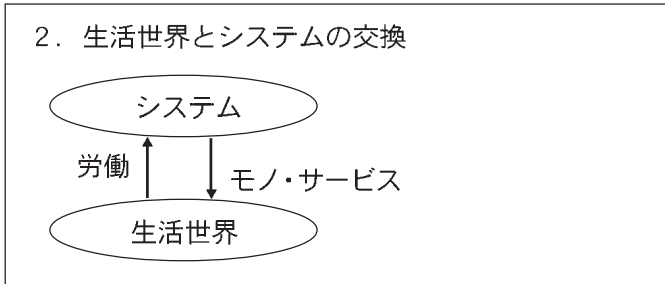
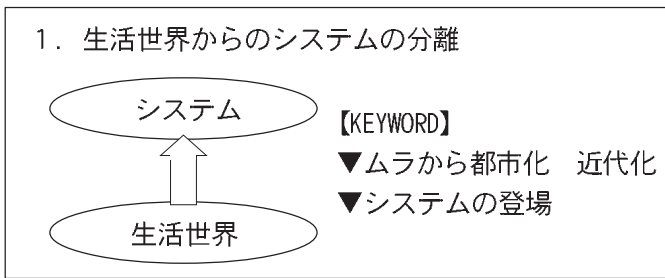
当事者へのヒアリングについて、うきは市にある育児サークル・子育て支援センターの参加・利用者を対象に座談会形式で行うことになりました。

なお、質問に対する回答をいくつか用意し、点数方式（点数が高いほど暮らしやすいことを示す）でSQを把握します。

また、調査を専門家から客観的に評価してもらうため、市の保健師、子育て支援センター職員、児童委員、絵本の読み聞かせや子ども一時預かりなどのボランティアに携わっている人からも意見を聞くことにしました。



★生活世界とシステムの関連の諸相（段階）★



講義

生活世界とシステムの

関連の諸相（段階）

例えば以前の介護は家族内（生活世界）で行われていました。しかし、家族だけで介護を行うことに限界が見え始めました。

そこで、「社会で支える」ということで、介護保険という新たなシステムが登場しました。このように、システムは生活世界から生まれ、両者

が交換し合う（利用料金を支払ったり、労働によって賃金を得たり）ことでお互いを成り立たせています。

現代社会ではシステムの影響が大きくなっており、生活世界の問題を金で解決してしまうなど、システムとだけ結びついて生活する事も可能です。

しかしこのことは、「システムによつて生活させられている」とも言いかえることができます。既存の介護保険サービスに、利用者がサービ

スをあてはめられている、という危惧もあります。

システムによる生活世界の植民地化が進むことにより、生活世界では孤立や虐待などの社会的排除が発生します（※まなこ61号参照）。

肥大化するシステムを制御するためには、生活世界の高次化（活性化豊富化）が求められます。

生活世界の高次化とは、色々な人がコミュニケーションを取りやすい場をつくることを言います。

生活世界の親密圏だけに「システムのここがおかしい」という声をとどめておくのではなく、その意見を基に、新たな公共を生み出したたり、制度が生活世界に適合できるようにシステムに対して働きかけることが、地域福祉での援助の考え方として重要です。

切間近!!

inふくおか

第4回九州4県社協職員合同研究会議

私は、人と地域と
こんな風に向き合っています

“知る”は楽しみなり 地域を知る
自分を知る名物ワーカーの取り組みを知る

■開催期日■
2010年2月13日(土)～14日(日)
■会場■
福岡市健康づくりセンター等複合施設
(〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号)

■主催■
大分県市町村社協職員連絡協議会
佐賀県市町社会福祉協議会職員連絡協議会
長崎県市町社会福祉協議会連絡協議会
福岡県地域福祉活動職員連絡会

■内容■

▼グループをつくり、関西からお招きした4人の名物ワーカーの部屋をローテーションで廻ります。

■零の間 全体の意見を如何に活かして、みんなのための計画を作り実践していくのか

■兵庫県 宍粟市社会福祉協議会 山本 正幸 さん

■壹の間 みんなの知恵と力を如何に繋いで、地域の生活課題を改善していくのか

■大阪府 池田市社会福祉協議会 茂龍 知美 さん

■貳の間 当事者の声を如何にして顕在化し、みんなの課題として取り組んでいくのか

■兵庫県 淡路市社会福祉協議会 凧 保憲 さん

■参の間 個々にあがる相談を如何にして聞き、如何に対応していくのか

■滋賀県 大津市社会福祉協議会 山口 浩次 さん

▼全体会では各部屋の報告者とフロアのやり取りを行います。

コーディネーター 山田 早苗さん (元大阪府社会福祉協議会)

コメンテーター 小野 達也さん (大阪府立大学准教授)

編集後記

—編集者のつぶやき—

長年施設に入所していた筋ジストの女性のお話です。

「施設にいた頃、ボランティアの学生と一緒に、筋ジストの患者向けの療育キャンプを企画したことがあります。その時、私も学生も20歳くらいで、私にとって初めての同年代の外部の人でした。

だから準備も楽しくて、だんだん仲良くなりました。キャンプが終わった後も会うようになり、ボランティアから友人のような関係になっていきました。その友人も大学を卒業し、就職、結婚していきました。

4～5年後、施設に遊びに来てくれました。その時に会話の中で『全然学生時代と変わらなくて、ここに来るとホッとする』と言われました。

何気ない一言でした。その友人も良い意味で言ってくれたのだと思います。でも、言われた私たちは『えっ?』と思いました。つまり、施設の中で何年間も変わらない生活をしているということなのです。

私たちは同い年なのに、生活の環境が違うだけで、こんなに差が出る。友人は社会で活躍している。私は何をやっているのだろう、と考えさせられました。

その後しばらくの間、会うことに抵抗を感じるようになってしまいました。対等に話せるようになったと思えたのは、私が地域で一人暮らしを始め、仕事をできるようになってからです。その時のがっかりした気持ちは、結構強烈に残っています。」

このお話からは、施設での暮らしの在り方、ボランティアとの関係、青年期障害者の抱える課題、様々な問題を提起してくれます。

また、私たちの何気ない一言が、重要な意味を持つかもしれない。そんなことを気づかされるお話でもあります。
(U. Y)

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒839-1321

福岡県うきは市吉井町347-1

うきは市社会福祉協議会内

TEL 0943-76-3977

FAX 0943-76-4329

E-mail f-chishokuren@ukiha-shakyo.or.jp